

1 学校教育目標

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく考え自ら学ぶ生徒 | 2 正しく判断し実行する人 |
| 3 礼儀正しく情操豊かな人 | 4 心身ともに健康な人 |

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 生徒と教職員が共に誇りをもち、保護者・地域から信頼され、夢と希望を育む学校 ・「夢を実現できる生徒」を育む学校 ・「健康で自律心や規範意識を身につけた人間性豊かな生徒」を育てる学校
○児童・生徒像	○ 総合的な人間力のある魅力ある生徒 ・自ら学ぶ生徒 ・思いやりの心をもち、社会に貢献できる生徒 ・豊かな情操と体力を育み、心身ともに健康な生徒
○教師像	○教育のプロとしての自覚があり、誇りと情熱をもつ教職員 ・実践力、指導力のある教職員 ・信頼され教職員 ・情熱のある教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

<前年度の成果と課題>

成果：コロナ禍3年目となり、OODA ループを取り入れ、適切に状況を判断しながら本校の特色ある三大大行事（運動会、文化祭、合唱コンクール）を含め、職場体験以外予定していた教育活動を従来に近い形で実施することができた。AI ドリル推進校として、授業改善や補充教室の充実を図れた。区調査正答率、通過率は横ばいではあるが、次年度の結果に期待したい。

課題：コロナ禍を理由にしたくはないが、昨年減らした不登校生徒発生率が6%以上と元に戻ってしまった。また、本校の魅力ある教育活動や生徒の学校生活の様子を発信はしたが、入学希望生徒が若干の伸びで終わってしまった。今後も積極的に理解を得られるような機会を作り出す必要がある。新学習指導要領実施3年目を迎え、今年度は各教科「主体的な学習姿勢」「協働的な学び」を通してプレゼンテーション能力の育成に重点を置き、指導と評価の一体化に向け努力する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	（ICT活用した主体的・対話的で深い学びを通じた学力の確実な定着と正答率・通過率の向上）	○	○	○	○	○
3	心の教育の充実を図り、秩序と活力のある安心・安全な学校生活環境の提供			○	○	○
4	小中連携活動や保護者や地域・外部機関との連携を通じた生徒の自尊感情、自己肯定感の向上			○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（ICT活用した主体的・対話的で深い学びを通じた学力の確実な定着と正答率・通過率の向上）							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「狙いが明確で振り返りをしている」「自分の力が高められている」生徒の増加、区学力調査の結果、学力での自己肯定感を高める。		「ねらいが明確で振り返りをしている」「自分の力が高められている生徒 各学年 90% 年度末到達度調査正答率 60% 令和5年度区学力調査通過率 60%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	授業改善・授業力向上	全教科担当	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が年2回、指導案を全教員に配布して公開授業を行う。 ICTを含めAIドリルを授業内で積極的活用を促す 週案にコメントを書き、教員の授業改善への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業アンケート年間3回 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートすべてについて、肯定的平均回答の上昇(80%以上) 	自己評価の際に記入		
継続	放課後補充	全学年 全生徒 英語・数学・国語・社会・理科	行事 重点 期間 等 を除く	<p>【指導体制】学年担当教員</p> <p>【取組内容、ねらい・目的】AIドリル、教材を活用し、生徒に授業内容の定着を図る。授業内での確認テストで成果を図る。(B、C層の向上とD層の学習習慣の定着を目指す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で進度等を考慮して確認テスト(各学年)を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストで定着度の低い生徒に教科として学習教室(白鷺教室)を行う。 			

継続	検定受検の推進	全学年 希望生徒 国・英	国・年2 回 英・年3 回	指導体制 教科担当教員 教科への興味を高め、学習 の成果を実感し達成感を 味わわせる。	受験者数 合否 資格取得 率	3年生までに 50%の生徒が、 いずれかの検 定で3級以上 を取得する。			
	I C T機器の 活用	全学年 全生徒	年間	①教員がI C T機器を活 用して授業を行う。 ②生徒のI C T機器使用 場面を広げる	①生徒の 授業アン ケート ②自己申 告面接	①肯定的回答 80%以上 ②生徒に使用 させる教員の 割合上昇			
	サマースクール(1・2年基 礎コース、3 年発展コー ス、基礎コー ス)	1・2年年 国語・数 学・英語 目標値未 満 各学年約 20名程度 を募集 3年国、 数、英、 社、理	夏休 期間中 の10日 各日50 分	【指導体制】 教科担当及び学年教員 【取組内容、ねらい・目的】 1・2年は目標値未満生徒で 指名生徒と希望生徒に分 け、前後5日間で振り分け る。少人数で学年全員の教 員で指導する。3年は両コ ースとも希望制とする。 【使用教材】プリント教材	サマー スクール終 了後、確認 テストで 確認	夏休み終了後 の確認テスト で全員の正答 率を20%の上 昇 できなかった 場合、冬休みの 宿題でもう一 度勉強し直			
	家庭学習の習 慣化	全学年 全員	年間	【取組内容、ねらい・目的】 毎日2ページの家庭学習 ノートを提出。 ・授業の振り返りを基に学 習方法を提示する	提出状況 調査	全学年提出率 を90%にする			
	1年間の総復 習	1, 2年 全員 3教科	2月 ～3月	取組内容・ねらい・目的】 ・復習確認テスト等を行 い、学習内容の定着度を確 認し、定着度の低い問題を 授業で解説し、春休みの宿 題で確認 ・必要があれば春休みに個 別指導を行う。	宿題提出 状況調査	全員の宿題提 出率を100%			

自己評価の際に記入

重点的な取組事項－2		心の教育の充実を図り、秩序と活力のある安心・安全な学校生活環境の提供			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の心に寄り添う指導を通して、成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価 90%以上を維持する。		「学校が楽しい」と回答する生徒の割合 90%以上 在宅だけの不登校生徒 0 を目指す。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
成就感・達成感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での成就感・達成感を得る	全校生徒が自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。	自己評価の際に記入		
人権に配慮した個別指導と教育相談の充実	いじめ質問紙調査(年3回)、QU実施(2回)、個別面談(年3回)を実施する。	・得た情報や分析結果をもとに、即時対応する。 ・いじめ・暴力行為に関しては別室対応として反省を促す。			
不登校生徒への対応	不登校出現率 5%以内にする。	・教育相談部会を充実させ、関係機関につなげる。 ・対面指導を基本とする。電話だけで済ませない。			
本を読む指導を通しての心の充実	朝読書の実施、図書館利用率 50%を目指す。 調べる学習コンクール入賞者数	本を読んだり、落ち着いた環境を提供する。また、調べる学習コンクールに積極的に参加させ、学校図書館の利用率を上げる			

重点的な取組事項－3		小中連携活動や保護者や地域・外部機関との連携を通じた生徒の自尊感情、自己肯定感の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
地域に根ざした学校を目指し、特色ある教育活動を通して本校の魅力を発信し、小中連携活動を充実させながら生徒の健全育成を図る。		地域貢献による自尊感情、自己肯定感の向上 生徒アンケート「地域に貢献している」肯定意見80%以上 小中連携研修年7回の実施	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携研修及び連携事業	合同研修会・研究授業を3回、指導案検討等を4回実施し、教科連携を図る。また、本校の特色ある教育活動を体験させる機会を作る。 進路満足度 90%	・小中の管理職と小中連携担当者により連絡・調整を前年度に行い年間計画により実施 9年間のキャリアパスポートを利用し、自己実現を図る。	自己評価の際に記入		
ボランティア活動の奨励（リトルティチャー等）	生徒アンケート「自分には良いところがある」肯定意見80%以上	ボランティア活動による地域、連携小学校への積極的派遣（生徒会が呼びかける）			
開かれた学校づくり協議会員との交流	開かれた学校づくり協議会委員生徒理解度90%以上	「花いっぱい運動」「3年面接練習」等での交流、各行事への参観			
保護者・地域への情報提供と連携の強化	保護者アンケート満足度肯定意見80%以上	HPの随時更新と学校だよりの発行と生徒と教員の地域行事への積極的派遣			

6 まとめ

- (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性
- (2) 保護者や地域へのメッセージ
- (3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。